

【報告】

平成28年度国立大学図書館協会海外派遣事業報告：シンガポールの図書館を訪ねて

寺島 久美子

(学術情報課雑誌情報係)

一橋大学学術・図書部

1. はじめに

2016年11月の1週間、国立大学図書館協会海外派遣事業¹により、シンガポールの大学図書館の研究支援サービスについて調査する機会に恵まれた。シンガポールの大学は、国際的な研究評価を上げるために先進的な取り組みを行い、そこに大学図書館が積極的に関わっている。学術情報の保存や提供の点で、国立図書館や公共図書館も役割を担っている。そこでシンガポールの各種図書館における研究支援サービスを調査することを目的に、代表的な大学図書館及び国立図書館、公共図書館を訪問した。

本調査では2016年11月13日から19日までの7日間に、シンガポール国立大学(National University of Singapore: NUS)、南洋理工大学(Nanyang Technological University: NTU)、シンガポール経営大学(Singapore Management University: SMU)の大学図書館、およびシンガポール国立図書館(National Library Board: NLB)と3館の公共図書館(Central Pubic Library、library@orchard、library@esplanade)を訪問した。調査目的であるシンガポールの図書館の研究支援サービスに関しては、別途『大学図書館研究』第107号に報告予定である²。

本稿では、訪問した図書館の見学報告を中心に、研究支援に限らず特筆すべき取り組みを紹介する。今回の調査では以下の日程で合計7つの図書館を訪問することができた。訪問先と主な面会者は以下のとおりである。

日程	訪問先	面会者
2016年 11月14日	library@orchard	(見学のみのみ)
11月14日	Central Pubic Library	(見学のみのみ)
11月15日	シンガポール国立図書館 庁(National Library Board: NLB)	Mr. Mohamed Saleem (Assistant manager, International Relations & Development) Ms. Lee Meiyu (Librarian, Content & Service) Ms. Gladys Low (Manager, Content & Service)

11月15日	library@esplanade	(見学のみ)
11月16日	南洋理工大学図書館 (Nanyang Technological University Library)	Ms. Dianne Cmor (Deputy University Librarian) Ms. Goh Su Nee (Senior Assistant Director, Scholarly Communication Division) Ms. Men Yali (Senior librarian, Scholarly Communication Division)
11月17日	シンガポール国立大学図書館 (National University of Singapore Library)	Dr. Sim Chuin Peng (Senior Associate University Librarian)、 Ms. Tan Geok Kee (Head, Research Support and Scholarly Communication) Ms. Kow Yu, Geraldine (New Head, Research Support and Scholarly Communication) Mr. Jonathan Pradubsook (Lead, Bibliometric Team) Ms. Chew Shu Wen (Lead, Publishing Resource Team) Mr. Feng Yikang (Lead, Digital Scholarship Team)
11月18日	シンガポール経営大学 (Singapore Management University Library)	Ms. Gulcin Cribb (University Librarian) Ms. Yeo Pin Pin (Head, Scholarly Communication) Ms. Yuyun Wirawati Ishak (Head, Information Services)

2. シンガポールの概要と図書館・情報政策

シンガポールの国土面積は約719平方キロメートルで、東京23区の面積と同程度である。2016年6月時点のシンガポールの総人口は約561万人であり³、日本の総人口（2016年9月時点で約1億2690万人）⁴の約22分の1である。シンガポールの人口の74%を中華系の人々が占め、マレー系が13%、インド系が9%であり、公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語の4言語である。

シンガポールは国土や人口の点で小規模な都市国家だが、1965年にマレーシア連邦から離脱独立して以来、経済開発を積極的に推し進めてきた。政府は外国企業を誘致して工業を発展させ、国家主導で交通、建築、情報・通信などの環境を整備し、貿易や観光産業によってシンガポール経済の基盤を作った⁵。1980年代に政府は金融、投資、国際サービスなどに力を入れ、特に情報技術の発展を支援したことで、コンピューターの利用が社会に浸透していった。1992年に政府は「IT2000－インテリジェント・アイランド構想」を発表し、シンガポールがグローバルなビジネスおよび通信・運輸のハブとなることを目指した。IT2000構想では経済発展だけでなく、個人の能力の向上や生活の質の向上も目標に掲げられ、国内メディア産業の支援や文化施設の拡充も行われた⁶。

情報政策の中で図書館も主要機能の一つとして重要な位置を占め⁷、1994年には図書館整備計画のマスタープランとして「Library 2000」⁸が策定された。この政策の実行のため

に国立図書館庁（National Library Board: NLB）が1995年に発足し、約10億シンガポールドル（当時の日本円で約630億円）の予算が投入されて図書館の建設、IT技術の導入、資料の収集などが進められた⁹。「Library 2000」では図書館の設置などハード面の整備が行われ、その後継政策である「Library 2010」では電子サービスの開発などソフト面の充実が進んだといえる。第三の図書館政策として、国立図書館庁は2011年にLibrary 2020を発表した¹⁰。Libraries for Life（生活のための図書館）をビジョンに掲げ、読書の推進やコミュニティ空間としての図書館の役割の強化を打ち出している¹¹。

3. シンガポールの公共図書館

シンガポールの図書館サービスは、国立図書館、地域図書館、公共図書館の3層から構成されている¹²。国立図書館はシンガポール国内の出版物の納本制度による収集と、レファレンス業務を中心に行い、地域図書館は公共図書館のバックアップとして高度なレファレンスサービスに対応し、公共図書館は貸出に加えて講演会やお話会などの集会行事を行っている。都市国家であるシンガポールには地方自治体が存在しないが、さしずめ地域図書館が日本でいうところの都道府県立図書館、公共図書館が市区町村立図書館に近い役割を持っている。

2017年2月現在、シンガポールには国立図書館1館、地域図書館3館、公共図書館23館があり、いずれもNLBが管轄している¹³。近年、デザインや利便性を重視した公共図書館が開館し、住民の憩いの場として親しまれている。ここではlibrary@orchard、library@esplanade、Central Public Libraryの3館を紹介する。

3.1. library@orchard

library@orchardは、若年層のニーズに即した公共図書館として、シンガポール中心部に1999年に開館した。その後2014年10月にリニューアルオープンし、シンガポールきっての繁華街であるOrchard Roadに面したショッピングモールの3・4階に位置している。library@orchardの主なターゲットは、デザイン、ライフスタイル、アートに関心を持つ利用者である。リニューアルにあたって、NLBとSingapore Polytechnic（高等専門学校）が共同でlibrary@orchardの空間をデザインした¹⁴。

館内のエリアごとにコンセプトが設定され、利用者の興味をかきたてる工夫がなされている。3階「Studio」は「Imagine, make, share」のコンセプトのもと、デザインスタジオの

ように自由な発想を促し、その成果を共有できる場として設計されている。ひととき目を引くのは、館内中央に設けられた円形劇場のようなスペースである（写真1）。グループで集まる場として設計され、利用者は床や段差に思い思いに座ってくつろいでいた。周囲を囲む書架も明るい色で曲線的なため、圧迫感がなく開放的な空間となっている。



写真1 円形劇場型スペース（arena space）

4階は「Loft」と名付けられ、開放的な3階とは対照的に、屋根裏部屋のような静かで落ち着いた空間にデザインされている。利用案内リーフレットには、4階のコンセプトとして「Hide away from the world with a good read in comfortable spaces」（居心地の良い空間で、素晴らしい読み物とともに、日常から離れよう）という言葉が記されている。この言葉通り、居心地の良さが追求されている。特徴的なのは、書架の間や部屋の隅に作り付けられた筒形のソファである（写真2）。腰掛けると、木の壁にすっぽり包まれる状態となり、周囲を気にせず読書に集中できる。書架には画集や写真集などがディスプレイされ、思わず手にとりたくなるよう工夫されている（写真3）。ここにも「居心地の良い空間」「素晴らしい読み物」というコンセプトが形になっていることが見て取れた。

この他にも、壁一面の新着雑誌スペース（Magazine Wall）、映画などのDVDコレクション（DVD Shelf）、映像を流せるスクリーン（Video Wall）など、利用者の興味を引く設備

が随所に見られた。library@orchard は、繁華街のショッピングモールという立地を生かして利用者を引きつけつつ、開放的な雰囲気と静かに集中できる環境を両立している点で大変興味深いといえる。



写真2 筒形のソファ



写真3 書架のディスプレイ

3.2. library@esplanade

library@esplanade は、パフォーミングアーツ（演劇、映画、音楽、ダンスなどの芸術）に特化した公共図書館として 2002 年に開館した¹⁵。劇場やコンサートホール、ショッピングモールを備えたアート複合施設である Esplanade Theatres on the Bay の 3 階に位置している。エスカレーター正面の壁には色鮮やかな絵が描かれ、壁伝いに絵を眺めるうちに、自然と図書館の入口へ導かれるよう工夫されている。

library@esplanade は「Villages」と呼ばれるテーマ別のエリアに分かれ、音楽、演劇、映画、ダンスの 4 つの Village から構成されている。入口の右手には Open Stage と呼ばれる舞台があり、トークイベントや映画の上映会などが行われている。この舞台の周辺はガラス張りになっているため、図書館の外からイベントの様子が見えるようになっている。

Music Village には、音楽に関する本はもちろん、楽譜や CD も豊富に収集されている。Music Sampling Post という備え付け機器で CD を試聴することもできる。ピアノルーム（Piano Practice Room）やバンド演奏ができるブース（Silent Studio）も設けられ、1 時間単

位で有料レンタルが可能である。

Theatre Village には、演劇に関する本、ビデオ、脚本などが揃えられ、劇の衣装や小道具がところどころに展示されている。スクリーン付きの小さなステージもあり、その周囲には劇場のボックス席のようなソファが並べられ、劇場にいたような空間を作り出している（写真4、5）。



写真4 スクリーン付きステージ



写真5 ボックス席型のソファ

Film Village は、映画に関する本や脚本のほか、DVD や Blu-ray ディスクのコレクションも有している。DVD や Blu-ray ディスクは貸出可能であり、シンガポールの公共図書館では、年齢制限のある映画（M18、R21 など）を貸出しているのは library@esplanade だけである。また、閉架にはアジア映画のコレクションがあり、事前の申し込みによって利用が可能である。

Dance Village にはダンスに関する本や雑誌などの資料に加え、LED スクリーンが備え付けられ、ダンスの映像を上映することができる。体を動かせるスペースも確保されており、ここでもトークイベントが行われている（写真6、7）。

このように library@esplanade はアートに特化したコレクションを揃える一方、アート複合施設である Esplanade Theatres on the Bay の中にあるという立地を生かし、利用者を引き付ける工夫を凝らしていた。Esplanade Theatres on the Bay 入口の最も目立つ場所には、劇場やオープンエリアで開催中のプログラム一覧が掲示されているが、そこに library@esplanade のイベントも掲載されている。library@esplanade のイベントは原則として無料のため、観劇、買い物、観光などのついでに立ち寄りやすい。オーケストラ演奏者



写真 6、7 Dance Village



写真 8 併設カフェ



写真9 Bamboo Garden

のプレコンサートトークやダンスのワークショップなど、劇場の演目と関連するプログラムも多いため、観劇や音楽鑑賞に訪れた人々を引き込む効果も期待される。

library@esplanade は、ふらりと立ち寄った人にも居心地の良い空間を提供している。入口の右手にはガラス張りのカフェが併設され、軽食とドリンクが販売されている(写真8)。図書館内は原則として飲食禁止だが、読書や勉強の合間にカフェスペースで飲食しながら休憩できる。このカフェに隣接する図書館の右奥部分は、Reading Lounge という読書スペースになっており、大きな窓に面してソファが並べられている。海沿いという立地を生かし、ベイエリアの風景を見渡しながら本を読むことができる。

library@esplanade は、アートに関連するコレクションやサービスを積極的に提示すると共に、アートをよく知らない人にとっても知的好奇心をかきたてられる空間を作り出している。その場にいるうちに利用者が自然とアートに親しみ興味を持つようになれば、アートに関する資料やイベントの更なる利用につながっていく。利用者を取り込み、図書館を身近な存在にしていける library@esplanade の取り組みに学ぶべき点は多い。

3.3. Central Pubic Library

Central Pubic Library は、国立図書館庁（NLB）の地下1階に2005年に開館した。かつて NLB は Stamford Road にあり、Central Pubic Library も同じ建物に位置していたが、2004年に閉館し現在の場所（Victoria Street）へ移転している。現在の場所は官公庁街の中心部であり、シンガポール国立博物館や美術館にも近く、商業と文化の中心部に位置している¹⁶。

移転前の建物を記念するものとして、現在の Central Public Library の庭園（Bamboo Garden）には旧 NLB の赤レンガ 5,000 個が使われている（写真9）。壁際には旧 NLB の写真がパネル展示され、この図書館の歴史が紹介されている。

館内は大人向けのエリアと子ども向けのエリアに分かれている。大人向けのエリアには新聞、雑誌、娯楽や教養のための読み物が並び、多くの人々がくつろいでいた。特に英語の小説のコレクションが充実しており、30,000 タイトル以上を有している。

子ども向けのエリア「My Tree House」は2013年に新設された（写真10）。シンガポールの大手不動産会社である City Development Limited が開発に携わり、デザインや使用素材の面で環境に配慮している。入口正面には、大きなツリーハウスを模したイベントスペースがあり、お話会などが行われている（写真11）。筆者が訪れた2016年11月には「Mother Tongue Language Reading Festival」と題し、シンガポールの公用語である4言語（中国語、マレー語、タミール語、英語）でのお話会が開催されていた。



写真10 My Tree House 入口



写真 11 中央のツリーハウス

ツリーハウスの周囲には低い書架やソファ、展示スペースが配置され、子どもが読書に親しめるような空間が作られている。検索端末や自動貸出機も、鮮やかな色使いと動物のイラストで目を引くデザインとなっている。展示スペースには、ハロウィンに因んだ絵本がディスプレイされていたり、サイクロンや地震など自然災害についての本が紹介されていたりと、幅広い年齢の子どもたちの興味を引く工夫が見られた。

Central Pubic Library は、シンガポールの図書館の歴史を踏まえつつ、読書をもっと身近にする憩いの場としての役割を果たしている。特に子どものためのスペースは家族連れで賑わっていた。

4. シンガポール国立図書館庁 (National Library Board)

シンガポール国立図書館庁 (National Library Board: NLB) は、情報通信芸術省 (Ministry of Information, Communications and the Arts) 傘下の法定機関として 1995 年に設立され、2005 年に現在の場所でリニューアルオープンした¹⁷。NLB は図書館政策を立案し、地域図書館や公共図書館のバックアップをする一方で、国立図書館として様々なサービスを行っている。

NLBのある建物（National Library Building）はシンガポール中心部のシティと呼ばれる官公庁街の中心に位置し、5階が展示スペース、7階から11階が図書館スペース（Lee Kong Chian Reference Library）となっている（写真12）。国立図書館はシンガポール国内で発行された資料の収集に力を入れており、図書や雑誌はもちろん、新聞、年鑑、統計、パンフ



写真12 NLBのLee Kong Chian Reference Library



写真13 映画に関するNLBでの展示

レット、ポスター、楽譜、地図なども積極的に入手している。シンガポール及び東南アジアに関するコレクションや、英語に加えてシンガポールの公用語である中国語、マレー語、タミール語のコレクションが充実しており、自国の歴史と文化を重視していることが窺える。近年は新聞¹⁸や楽譜¹⁹などの所蔵資料を電子化して提供するサービスも行っている。

展示スペースでは、国立図書館の歴史を概観する常設展示のほか、期間を定めて様々な企画展示が行われている。筆者が訪れた2016年11月は、シンガポールにおける演劇や映画の歴史を展示していた（写真13）。新聞記事、映像、俳優の声の録音など、多様な図書館資料が活用されていた。これらの展示は、図書館員が企画することもあれば、学校や企業などの外部団体に場所を貸して行うこともあるという。

図書館スペース内には勉強する学生の姿が目立ち、閲覧席はほぼ埋まっていた。国立図書館にはビジネス、自然科学、芸術、人文社会科学など幅広い分野の資料が充実しているため、市民や学生の情報収集と学びの場として利用されていることが見て取れた。

5. 南洋理工大学図書館

南洋理工大学はシンガポール西部のジュロンに位置し、学生数は約33,000人である²⁰。理工系の研究大学として国際的に高い評価を獲得しており、2016年6月に発表されたTimes Higher Educationによる「Asia University Rankings 2016」ではアジア第2位に躍進した²¹。南洋理工大学には8つの図書館があり、今回は中央図書館にあたるLee Wee Nam Libraryを訪問した。Lee Wee Nam Libraryは既にラーニングコモンズを有しているが、更なる学習スペースの拡充と研究環境の向上を目指し、2017年夏にリサーチコモンズを開設する予定である。今回は建設中のリサーチコモンズと、既設のラーニングコモンズを見学した。

図書館の建物は円柱状になっており、2階の正面入口を入ると目の前には大きな円形の吹き抜けが広がる。この吹き抜け部分は2016年1月より工事中で、2017年夏にはリサーチコモンズが完成する予定である（写真14）。教職員や学生にニーズ調査を行ったり、先進的な他大学の図書館を見学したりして、リサーチコモンズの計画を作成したという。

リサーチコモンズには、イベントや研究発表を行えるEvent Centralや、電子ブックを大きなスクリーンで閲覧できるE-book Gallery、3Dプリンターや統計ソフトなどが利用できるData Workbenchなど、個性的なエリアが設けられる予定とのことである。電子リソースの可視性を高め、利用者にとって有用なツールを揃えることで、学生や教職員が分野を問わず集まれる場所を提供するのがリサーチコモンズのコンセプトだという。



写真14 NTUの研究コモンズ（建設中）



写真15 NTUのラーニングコモンズ



写真 16 シンガポール国立大学（NUS）の Central Library



写真 17 ガラス張りのスペース

Lee Wee Nam Library は5階建てとなっており、吹き抜けを囲む形で回廊状に書架や閲覧席が配置されている。どの階も満席状態で、年齢も出身地も様々な学生たちが黙々と勉強していた。1階にはラーニングコモンズがあり、こちらは寛いだ雰囲気、学生たちが談笑しながら勉強したり、コンピューターを使ったりしていた（写真15）。

南洋理工大学には各学部の分野に特化した図書館があるため、中央館にあたる Lee Wee Nam Library には大学のシンボルとしての役割が求められているといえる。居心地の良い学習環境を体現するラーニングコモンズに加え、電子リソースや各種ソフトなど最新のツールを提供するリサーチコモンズによって、研究環境の充実をアピールすることが可能となる。2017年夏の完成後、リサーチコモンズの利用状況や学内外の反応に注目したい。

6. シンガポール国立大学図書館

シンガポール国立大学は、南西部のセントリッジに位置するシンガポールきっての名門大学である。学生数は約31,000人であり、うち約3割を留学生が占める²²。2016年6月のTimes Higher Educationによる「Asia University Rankings 2016」ではシンガポール国立大学が第1位にランクインし、世界的に注目を集めている。シンガポール国立大学には7つの図書館があり、今回はCentral Library（中央図書館）を訪問した（写真16）。Central Libraryは人文社会科学、芸術、コンピューター、エンジニアリングなど幅広い分野の資料を揃え、多くの学生に利用されている。訪問時の11月が試験期間だったこともあり、閲覧席は満席状態で、学生たちの熱心に勉強する姿が印象的だった。

館内は多くの書架と机が並ぶ伝統的なレイアウトだったが、居心地の良さを重視した空間も見られた（写真17）。フロアの一部にはガラスで区切られたスペースがあり、色鮮やかなソファやテーブルが並べられ、くつろぎながら本を読んだり談笑したりする学生たちで賑わっていた。静かに集中できる伝統的な閲覧席と、くつろいだり話したりできるソファ席のどちらも、良く利用されていることが見て取れた。

なお、シンガポール国立大学には多数の留学生や外国人研究者が在籍しているが、館内の表示言語は英語のみだった。英語ともう一つの言語（例えば中国語）を表示すると、他の言語を母語とする利用者から「なぜ〇〇語はないのか」と指摘される可能性があるため、あえて英語のみの表示としている、とのことだった。留学生や外国人研究者に何か特別なサービスをするというより、特別な扱いをしなくてもサービスを受けられる環境を作るとを重視しているとのことだった。

7. シンガポール経営大学図書館

シンガポール経営大学は、シンガポール中心部のシティに2000年に設立された。4つの学部とビジネススクール、ロースクールを有し、学生数は約9,500人である²³。立地はシンガポール国立図書館庁にほど近く、シンガポールの商業と文化の中心地に位置している。シンガポール経営大学図書館（正式名称 Li Ka Shing Library）も都心のビジネス街という場所柄を反映しオフィスビルのような外観だが、内部には快適な学習・研究環境を保つための工夫が施されていた（写真18）。

館内には吹き抜けや大きな窓が設けられ、ビルの中であることを感じさせない開放的な空間となっている。2階はデッキに通じており、外の風景や花壇を眺めて一息つくことが



写真 18 シンガポール経営大学図書館 (SMU)



写真 19 SMU のラーニングコモンズ

できる。新聞や雑誌など軽い読み物を揃えたラウンジや、可動式の机や椅子を備えた hive (ミツバチの巣箱。転じて、人が賑やかに活動している所) があり、活況を呈していた。学生の様子を見て家具の配置を変えることもあるそうで、例えば hive では窓の方を向いて座る学生が多かったため、大きな窓に面して机を並べたところ、常に席が埋まるようになったとのことだった。

静かに集中できる環境として、仕切り付きの個人学習席や予約制のディスカッションルームも提供されている。コンピューターが使えるエリアもほぼ満席で、特に館内限定のデータベースの需要が高いため、事前予約を推奨しているとのことだった。また、携帯電話

やスカイプで通話する利用者のためのブース（phone booth）が設けられ、利便性と静けさの両方に配慮されていることが見て取れた。5階には大学院生専用のラウンジがあり、大きな机や革張りのソファがゆったりと配置され、落ち着いた空間となっている。

図書館2階の一部は24時間利用可能なラーニングコモンズとなっており、別の入口を通じて夜間も入退出が可能である。ラーニングコモンズにはドーナツ型のテーブルが多数配置され、勉強する学生たちで賑わっていた（写真19）。なお、キャンパス内には図書館以外にも学習スペースやラウンジがあり、多くの学生に利用されていた。市街地にあるというSMUの立地上、キャンパスを学外者が通行することも多い。そのため図書館はもちろん、学習スペースやラウンジの出入りにも学生証が必要で、学内者のみが利用できるようにセキュリティが確保されていた。

8. おわりに

シンガポールは、図書館を情報政策の重要な柱として位置付けている。国立図書館、公共図書館、大学図書館のそれぞれが、利用者の求める情報や図書館サービスを提供するべく環境を整えていた。特に新設の公共図書館では、「図書館とは静かに勉強するところ」という従来のイメージにとどまらない空間設計やサービス提供を行っていた。国立図書館では、シンガポール関係資料の収集や電子化を推進する一方で、展示や利用者スペースを充実させ、場所としての魅力を高めていた。大学図書館でも、学術的な情報提供と居心地の良い空間の両立が図られていた。

いずれの図書館も、資料、空間、サービスを利用者の目に留まりやすい形でアピールしている点が印象的だった。多様な資料を展示したり、電子化したり、特徴的な閲覧席を設けたり、目を引く形でサービスを提示したりして、利用者に「使ってみよう」という気を起こさせるような工夫が見られた。

これらの取り組みによって「図書館はおもしろい」「居心地が良い」「色々な情報がある」というイメージが醸成されれば、利用者の増加や読書の推進、ひいては教育支援や研究支援につながる。今回の派遣事業では大学図書館の研究支援を中心に調査したが、公共図書館や国立図書館も「図書館を使おう」という利用者の意欲を高める役割を担っているといえる。

館種を問わず、シンガポールの図書館は資料収集、空間設計、サービス提供のすべてにおいて、自館に何が求められているか、何をすべきかを綿密に検討し実現しているという

印象を受けた。予算や運営上の制約から、日本でただちに実現するのは困難な面もあるが、そのコンセプト、企画力、行動力などに学ぶべき点が多い。シンガポールの図書館界の動向に今後も注目したい。

最後に、今回のシンガポールへの海外派遣に際して、たくさんの方々からご助力やアドバイスをいただいた。国立大学図書館協会海外派遣事業の関係者の方々、快く送り出してくれた一橋大学の方々、そしてシンガポールの図書館事情についてアドバイス下さった方々に改めて御礼申し上げます。

¹ 国立大学図書館協会海外派遣事業の詳細は、下記のウェブサイト参照のこと。<http://www.janul.jp/j/operations/overseas/>, (参照 2017-03-07).

² 当海外派遣事業の報告等は、下記のウェブサイトに掲載される。また『大学図書館研究』に今後投稿予定である。“国立大学図書館協会海外派遣事業 活動実績”. 国立大学図書館協会. <http://www.janul.jp/j/operations/overseas/result.html#H28-1>

³ シンガポールの国土面積、人口、民族、言語のデータは、外務省のウェブサイト参照。“シンガポール共和国 (Republic of Singapore) 基礎データ”. 外務省. <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>, (参照 2017-03-07).

⁴ 総務省統計局.“人口推計 (平成 28 年(2016 年)9 月確定値、平成 29 年 2 月概算値) (2017 年 2 月 20 日公表)” <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.htm>, (参照 2017-03-07).

⁵ 清水洋. “シンガポール”. 東南アジアを知る事典 : ベトナム+カンボジア+ラオス+タイ+ミャンマー(ビルマ)+マレーシア+ブルネイ+シンガポール+インドネシア+東ティモール+フィリピン. 桃木至朗ほか編. 新版, 平凡社, 2008, p. 617-622.

⁶ 糸林誉史. シンガポール: 多文化社会を目指す都市国家. 三修社, 2000, 235p.

⁷ 長崎理絵. シンガポール国立図書館のビジネス支援サービス. カレントアウェアネス. 2010, no. 305, p. 8-10 (オンライン), <http://current.ndl.go.jp/ca1726>, (参照 2016-12-26).

⁸ Library 2000 政策の骨子は、シンガポール国立図書館庁 (NLB) のウェブサイト参照。“Six Strategic Thrusts of Library 2000”. National Library Board. <https://www.nlb.gov.sg/Portals/0/Reports/fy97/hm/strategics.htm>, (accessed 2017-03-07).

⁹ 宮原志津子. シンガポールにおける図書館情報政策「Library 2000」の策定と公共図書館の社会的役割の変容. 日本図書館情報学会誌. 2006, vol.52, no. 7, p. 85-100 (オンライン), <http://ci.nii.ac.jp/naid/110007087394>, (参照 2017-03-09).

¹⁰ Library 2000, Library 2010 の概要とその後の展開は、下記の記事を参照。June Gwee; Neo Boon Siong. “A Library for the People: A Case Study of the National Library Board”. Civil Service College Singapore. 2014-06-02. <https://www.csccollege.gov.sg/Knowledge/Pages/A-Library-for-the-People-A-Case-Study-of-the-National-Library-Board.aspx>, (accessed 2017-03-07).

¹¹ 宮原志津子. シンガポールの新図書館情報政策 : コミュニティーにおける公共図書館の役割. 情報管理. 2014, vol.57, no. 7, p. 457-467 (オンライン), https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/57/7/57_457/html-char/ja/, (参照 2016-12-26).

¹² 長塚隆. シンガポールにおける図書館の動向と図書館員の教育. 情報管理. 2009, vol.52, no. 9, p. 554-558 (オンライン), https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/52/9/52_9_554/pdf, (参照

2017-01-20).

¹³ シンガポール国立図書館庁 (NLB) のページに地域図書館・公共図書館の一覧がある。

<http://www.nlb.gov.sg/VisitUs.aspx>, (参照 2017-03-09).

¹⁴ “Fact Sheet”. library@orchard. (online), <http://www.nlb.gov.sg/Portals/0/library/gallery/Orchard/library@orchard%20-%20Fact%20Sheet.pdf>, (accessed 2016-12-26).

¹⁵ “Fact Sheet”. library@esplanade. (online), http://www.nlb.gov.sg/Portals/0/library/documents/Esplanade/library_esplanade%20-%20Fact%20Sheet.pdf, (accessed 2016-12-28).

¹⁶ “Fact Sheet”. Central Public Library. (online), <http://www.nlb.gov.sg/Portals/0/library/documents/Central%20Public%20Library%20-%20Fact%20Sheet.pdf>, (accessed 2017-01-10).

¹⁷ “National Library / Lee Kong Chian Reference Library”. National Library Board. (online), <http://www.nlb.gov.sg/VisitUs/BranchDetails/tabid/140/bid/329/Default.aspx?branch=National+Library+%2f+Lee+Kong+Chian+Reference+Library>, (accessed 2017-01-20).

¹⁸ “Newspaper SG” National Library Board. (online), <http://eresources.nlb.gov.sg/newspapers/>, (accessed 2017-03-09).

¹⁹ “Music SG” National Library Board. (online), <http://eresources.nlb.gov.sg/music>, (accessed 2017-03-09).

²⁰ “Corporate Information”. Nanyang Technological University. (online), <http://www.ntu.edu.sg/AboutNTU/CorporateInfo/Pages/Intro.aspx>, (accessed 2017-01-20).

²¹ “Asia University Ranking”. Times Higher Education. (online), https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2016/regional-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/scores_overall/sort_order/asc/cols/stats, (accessed 2017-01-20).

²² “NUS Annual Report 2016”. National University of Singapore. <http://www.nus.edu.sg/annualreport/pdf/nus-annualreport-2016.pdf>, (accessed 2017-01-20).

²³ “About SMU”. Singapore Management University. (online), <http://www.smu.edu.sg/about>, (accessed 2017-01-20).

[Report]

Report on 2016 Overseas Visit Program by Japan Association of National University Libraries : the Visits to Singaporean Libraries

Terashima, Kumiko.

Serials Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information, Hitotsubashi University